

北海道立図書館報 No.204

2018.3.21

2018年は、「北海道150年」です！



(北海道立図書館所蔵 『北海道国郡全区』 明治2年に開拓使が発行。松浦武四郎作)

1869(明治2)年、蝦夷地の名称が「北海道」と命名され、今年2018(平成30)年は、その命名から150年の節目となります。

これを記念し、道内各地で本道の歴史や文化などの魅力を再認識し、道内外に発信していく取組として「北海道150年事業」が進められております。

当館もまた、さまざまな記念事業を実施してまいります。



その先の、道へ。北海道
Hokkaido. Expanding Horizons.

目次

- ▶ 北海道150年事業 連続講座「映像によみがえる北海道」・・・1
- ▶ 北海道150年事業・ふるさと映像資料等活用促進事業
「ふるさと動画DVD」の貸出しについて・・・2
- ▶ 臨時休館について／臨時休館中のサービスについて・・・3
- ▶ 道内図書館紹介「札幌市えほん図書館の開館から1年の取組」・・・4
- ▶ 活動報告
 - 平成29年度全道図書館専門研修(サービス/レファレンス)・・・6
 - 連続講座「がんを考える」・・・7
 - 「北海道150年」プレ事業 講演会・資料で語る北海道の歴史・・・8
 - 平成29年度全道図書館専門研修(経営/関係法規)・・・9
 - 読書活動充実事業(読書に親しむ体験授業)・・・10
- ▶ 連載・仕事紹介「道立図書館ではたらいています!～各課の1日～」・・・13
- ▶ 平成29年度北海道立図書館協議会・・・14
- ▶ 平成29年度全国優良読書グループ表彰・優良読書グループ北海道表彰・・・15
- ▶ 平成29年度下半期事業一覧・・・16
- ▶ 平成30年度事業計画・・・17

北海道150年事業 連続講座「映像によみがえる北海道」 3回シリーズ

毎年取り組んでいる「利用講座」のアンケートでは「映像鑑賞を取り入れてほしい」というご意見が寄せられていました。ご要望にお応えして、今回「映像によみがえる北海道」と銘打ち、道立教育研究所を会場に第1回「北海道開拓記念館の誕生から北海道博物館まで」（11月25日）、第2回「北海道の記録映画」（1月20日）、第3回「なつかし映像鑑賞会」（2月24日）の連続講座を開催しました。

3回の講座で上映した映画は『未来へのかけはし』（1969年）、『北海道の開拓～入植編、開墾耕作編、営農編』（1950～53年）、『新しい街 大麻』（1969年）、『美しき北海道』（1963年）、『72 冬季オリンピック札幌大会』（1972年）の5作品。映画には、1950年代から70年代に



かけての北海道の姿が生き生きと記録されていました。映像に見入る参加者の姿が印象的な講座となり、感想にも「今後も映像を活用した講座を実施してほしい」という声が多く寄せられました。

また、講師として北海道博物館から東俊佑学芸主査（11月25日）と三浦泰之学芸主幹（1月20日）をお招きし、東主査からは北海道100年を記念して建設された「北海道開拓記念館（現北海道博物館）」と「百年記念塔」の意義と現在の北海道博物館に至る経緯、そして建設時に意図された（現在は忘れられた？）意匠などのお話を、三浦主幹からは北海道内での映画製作に関する興味深いエピソードとともに『北海道の開拓～入植編、開墾耕作編、営農編』に代表されるような、当時盛んに制作された「記録映画」と呼ばれるジャンルの映像記録についてのお話を聞くことができました。

講座で使用した映画は、北海道150年事業の一つである「ふるさと映像資料等活用促進事業」によってデジタル化された115の映像作品から選んで上映しました。今回上映したものの他にも貴重で興味深い映像作品が多数あり、今後も機会を見つけて上映をしていきたいと考えています。

（北方資料課）

北海道150年事業・ふるさと映像資料等活用促進事業 「ふるさと動画DVD」の貸出しについて

北海道立図書館では数多くの16ミリフィルムを所蔵しています。しかし、16ミリフィルムは傷みやすく、また映写機などの上映機材も、故障した際に補修部品が入手できなくなったことからメンテナンスが難しくなってきました。そこで今年度、北海道150年事業の一つとして、その16ミリフィルムをデジタル化してDVDとし、長く保存すると同時に、多くの方に視聴してもらい、広く活用していこうという「ふるさと映像資料等活用促進事業」に取り組みました。

今回デジタル化に取り組んだ16ミリフィルムは戦前の北千島の様子を記録したもの、北海道の戦後開拓やアイヌの人々の生活や豊かな文化を記録した映画フィルム、また1960年代の道内の市町村の様子を記録したテレビ放送用フィルムなど様々な分野にわたります。

それらをデジタル変換し、DVDとして復刻しました。そこには、豊かな自然の姿をはじめ、当時の時代を生きた人々の暮らしの様子や表情が生き生きと映し出されており、非常に興味深いものになっています。

これらDVD化された作品の多くは、各市町村の図書館や学校への貸出しができます。貸出しについては、通常の「図書館協力貸出し」と「学校図書館協力貸出し」を利用してお申し込みください。道立図書館のホームページ上に「ふるさと動画DVD貸出しのご案内」とタイトルを付けた貸出しのマニュアルと「DVD一覧」を公開しているので、参考にいただければ幸いです。

また、権利者の承諾を得た市町村紹介65作品については、各3分間のダイジェスト映像を製作しました。それらは、当館ホームページの「北方資料デジタル・ライブラリー」内から視聴できます。今住んでいる街の昔の姿、かつて暮らした土地や自分の故郷の映像などが3分間に凝縮されています。当時を生きた方はその映像の懐かしさを、また初めて当時の映像に触れるという方には新鮮さを感じていただけるものと思います。この65作品については個人貸出しも可能です。ダイジェスト版を見て「続きが見たい」と思った時は、ぜひ本編をご覧ください。

(北方資料課)



臨時休館について

【休館期間】

平成29年10月18日（水）～平成31年3月末

平成29年10月18日、一般資料閲覧室のアスベストを含む天井材の一部に剥離が確認されたため、適切な対策を講じ、利用者の皆様の安全等に万全を期する必要がありましたことから、同日以降、当面の間臨時休館をさせていただきました。

その後、利用者の皆様への影響を最小限にとどめ、安全にかつ安心してご利用いただくための対策について、専門業者の見解等も踏まえ、関係機関と協議を重ねてまいりましたが、一般資料閲覧室は、その構造上、囲い込みや封じ込めの工法が採用できないこと、また、アスベストを含む天井材が書庫を除くエントランスホールやえほんコーナー、図書館学資料室、北方資料閲覧室、子どもの本コーナーなど館内の広範囲にわたっていること、さらに当館は築50年を経過し、一般資料閲覧室以外でもひび割れ等が発生していることから、11月27日、平成30年度に全面的なアスベスト除去工事を行うこととなり、工事が終了する平成31年3月末まで、臨時休館を延長させていただきました。

利用者の皆様には、長期間にわたり、一部ご利用いただけないサービスがあるなど、ご不便、ご迷惑をおかけし大変申し訳ございませんが、何卒、ご理解とご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

(管理課)

臨時休館中のサービスについて 臨時受取窓口を開設しています

12月1日より、アスベストを含む天井材を使用していない第2書庫の1階に、「臨時受取窓口」を設置し、「インターネット予約貸出し」による本の貸出しを行っております。パソコン、スマートフォンなどで道立図書館ホームページの「利用者ポータル」にログインし、利用したい本を予約してください。申し込まれた翌日の昼までに窓口にご用意します。また、現在借りている本の返却、貸出延長や、インターネットが使えない方からの予約受付も「臨時受取窓口」で行っております。

書庫から本をお出ししたり、閲覧したりなどのサービスは現在休止しております。調査相談（レファレンス）につきましても、電子メール、電話、FAXなどの方法をご利用願います。詳しくは当館ホームページの「臨時休館中のご利用について」をご覧ください。

利用者の皆様には、ご不便ご迷惑をおかけして誠に申し訳ございません。今後サービス内容に変更がありましたら、適宜ホームページや、臨時受取窓口などでの掲示でお知らせいたします。

(利用サービス課)

札幌市えほん図書館の開館から1年の取組

札幌市えほん図書館 館長 池田 章宏



このところ少子化ということをよく耳にしますが、ここにいるとそのようなことを感じることはありません。毎日小さなお子様とその保護者がたくさん訪れ、蔵書2万冊の絵本の中から、お気に入りの本を探して読んで借りていけます。早いもので平成28年11月に延床面積515.64㎡、蔵書冊数(当初)1万5千冊のえほん図書館が開館してから1年が経過し、この間の来館者数は約22万人、貸出冊数は約18万冊に達しました。

えほん図書館で日々感じることは、子育て世代の多くの方は、きっとこのような場所を求めているのだろうということです。当館では声を出して絵本を読むのはもちろんのこと、赤ちゃんが泣き声を上げて注意されることはありません。館内での静寂を求める既存の図書館ではなかなかできないことであり、乳幼児期からの読書活動を進めるには、やはり乳幼児向けの新しい図書館をつくる必要があったのだと思います。

当館には乳幼児が読書に親しむためのいくつかの特色があります。その一例としては、親子で腰掛けられるソファやカーペットスペースを配置し、親子で一緒に本を読める空間をいたるところに設けています。また、絵本と出会う最初のきっかけとして表紙の見せ方も重要と考えており、絵本を展示する書架については低書架を用い、最下段に面陳棚を取り入れて絵本の表紙が見えるように配置しています。さらに、年齢別におすすめの絵本を紹介する「ブックリスト」を配布して、いつでも良書と出会えるように配慮しています。

そして、最も大きな特色は絵本の楽しさを体験できる様々な行事を開催しているところです。

当館では、初めて図書館を利用する乳幼児とその保護者を対象に、毎月第2日曜日を「図書館デビューの日」とし、絵本の読み聞かせを中心に人形劇や楽器演奏などを交えて図書館に親しむきっかけづくりのためのイベントを開催しています。

また、乳幼児の発達段階に応じたプログラムとして実施している「年齢別おはなし会」は特に人気を博しており、0歳児のプログラムでは会場に入りきれないほどの親子が訪れます。こ

の年齢別おはなし会は、図書館職員がプログラムを作成・実施しており、経験とノウハウを蓄積しつつ、参加者へのアンケートにより日々振り返りを行い、プログラムを発展させています。

さらに、読み聞かせを行うのは当館の職員だけではなく、ボランティアの方にも、その活動の場として当館を利用させていただいており、毎月、ボランティアの方による工夫を凝らした様々な読み聞かせ会が開催されています。

このような取組により、昨年10月に実施した利用者アンケートでは、満足度が98%に達し、「子どもが読書を楽しめるようになった。」「子どもを連れて図書館に出かける機会が増えた。」などの嬉しい声をいただくことができました。その反面、課題もまだまだ残されていますが、今後も「乳幼児の読書」というキーワードから様々な人が関わり、工夫を凝らしたサービスを提供していくことで、より多くの皆様に当館をご利用いただければと考えています。

(札幌市えほん図書館の施設概要：<http://www.city.sapporo.jp/toshokan/ehon/index.html>)



平成29年度全道図書館専門研修（サービス／レファレンス）

この研修会は、道内各公共図書館、公民館図書室等に勤務する職員に対し、図書館サービスに欠かすことのできないレファレンス（調査相談）機能の充実のため、職場や地域における指導的な役割を果たすスキルの習得と向上を目指し、開催したものです。

ビジネス支援に役立つ、具体的なレファレンスブック（参考図書）の紹介と、調査の事例紹介が、テンポ良く進められ、ツールの使い方の新しい発見やデータベースの検索などに道立図書館に頼ってよいことなども含めて紹介するなど、現場の実践に役立つものとして好評でした。



- 期 日：10月19日（木）～20日（金）
- 会 場：北海道立教育研究所 4階第一講義室
- 参加人数：32名
- 内 容

基調講演「ビジネス支援におけるレファレンス」

東京都立中央図書館・ビジネス支援図書館推進協議会理事 余野 桃子 氏

講義「ビジネス支援ってどうやるの？」

道立図書館利用サービス部利用サービス課企画主幹 工藤 嘉一

講義「役立つ情報のしらべかた」

道立図書館利用サービス部利用サービス課主査 須之内 美智代

講義「情報収集の効率UP！商用データベース&フリーデータベースの活用」

道立図書館利用サービス部利用サービス課長 宮本 浩

情報交換「ビジネス支援と情報収集」

■事後アンケートから

- ・紹介された資料を何冊か揃えたい。
- ・使い方が分からなかったレファレンスブックの使い方がわかった。
- ・ビジネス支援のヒントが貰えた。
- ・ビジネス支援の見方が変わった。

(企画支援課)

連続講座 「がんを考える」



平成29年10月29日、11月12日の二日間、北海道立図書館の利用講座として、連続講座「がんを考える」を、北海道がんセンター様のご協力のもと、北海道立教育研究所で実施しました。

講演の講師には、北海道がんセンターの加藤院長先生、高橋副院長先生にお越しいただきました。加藤先生には、ご専門である子宮頸がんの期ごとの特徴や治療戦略などを、高橋先生には乳がんの予防や検診についての解説、適切な治療や最新の治療方法等を、スライドを用いてくわしくお話いただきました。最後に30分程度、道立図書館職員による、医療やがんの分野を中心にした本の探し方や、図書館の分類がどのようなつくりになっているかなどの講義を行いました。

講演が非常にわかりやすく、丁寧にお話しいただいたため、参加者からも「がんの最新情報を知ることができた」「とてもわかりやすかった」「他のがんの話も聞きたい」など、大変好評でした。

■期 日：10月29日（日）、11月12日（日）

■会 場：北海道立教育研究所 2階大講義室

■参加人数：第1回 24名 第2回 12名

■内 容

【第1回】「子宮頸がんの疫学と治療」

講演「子宮頸がんの疫学と治療～がんセンターの婦人科医に聞いてみよう」

北海道がんセンター院長 加藤 秀則 氏

講義「本の探し方～がん関係を例にして～」

道立図書館利用サービス部利用サービス課企画主幹 工藤 嘉一

【第2回】「乳がんについてもっと知ろう」

講演「乳がんについてもっと知ろう～専門医がわかりやすく解説します～」

北海道がんセンター副院長 高橋 将人 氏

講義「本の分類とインターネット情報」

道立図書館利用サービス部利用サービス課企画主幹 工藤 嘉一

(利用サービス課)



活動報告

「北海道150年」プレ事業 講演会・資料で語る北海道の歴史（第18回）

「戦前、公文書の中のキリスト教 —取締りと統制を北海道で読み解く—

- 期 日：11月11日（土）
- 会 場：北海道立教育研究所
- 参加人数：32名

北方資料室では、所蔵する資料を題材に北海道の歴史を学ぶ講演会を毎年開催しています。第18回となる今年度は、北海道史研究協議会のご協力により、会員の鈴江英一（すずえ・えいいち）氏を講師にお招きし、「戦前、公文書の中のキリスト教 —取締りと統制を北海道で読み解く—」と題してご講演いただきました。



北方資料室が所蔵するコレクション『札幌宗教関係書類』をもとに、北海道立文書館所蔵の国指定重要文化財「開拓使文書」の内容をも加えて、戦前の禁教政策や信徒数調査、戦時下の宗教団体系などの文書からわかる対キリスト教政策の歴史についてお話いただきました。



『札幌宗教関係書類』の一部

参加者にはキリスト教に関心を持つ方々も多かった様子で、講演の後には熱心な質問があがりました。その一方で、「北海道の歴史をキリスト教の視点から考えることができ興味深い」「公文書でキリスト教史が分かって初めて知った」、また、「宗教の面から北海道の歴史を読み解くお話は初めて」「興味関心は以前から持っていたが、宗教関係の知識に疎く、

今回とても参考になった」など、普段キリスト教や宗教に触れることの少ないと思われる参加者からも新鮮な感想が聞かれました。

道立図書館の臨時休館のため、当初の予定から会場が変更となりましたが、北方資料やテーマへの興味関心を深められるよう、講演内容にかかわる『札幌宗教関係書類』の一部や、鈴江氏の著作を会場に展示したところ、講演終了後、資料に見入る参加者も多く見られました。

（北方資料課）

平成29年度全道図書館専門研修（経営／関係法規）

この研修会では、市町村の図書館から特に質問の多い「著作権法」と、今後、学校との連携を進める上で留意すべき子どもの読書活動に関連する法規について学ぶため、「今こそ聞きたい！読書活動をめぐる法律 ～著作権法・子どもの読書関係法規～」をテーマに市立小樽図書館を会場として開催しました。

著作権は、解釈がはっきりしない分現場で戸惑うことも多く研修の要望がかなり多い分野であり、参加者からも継続してまだまだ学びたいという声をいただきました。また、学校図書館の活用については、法規の側面から見ることによって、今回の研修が、その重要性をあらためて確認する機会となったようです。



■期 日：12月14日（木）

■会 場：市立小樽図書館 2階視聴覚室

■参加人数：32名

■内 容

講義「こんなときどうする？実務に役立つ著作権法」

道立図書館利用サービス部資料課長 一戸 泰

講義「学校図書館の活用、子どもの読書をめぐる動き～関係法規を中心に～」

全国学校図書館協議会 学校図書館スーパーバイザー

北海道教育大学 非常勤講師 「司書教諭講習」担当

北海道学校図書館協会 事務局次長 野村 邦重 氏

事例発表 「小樽市の学校司書配置の動き ～学校図書館法の追い風を受けて～」

市立小樽図書館司書 加藤 久美子 氏

情報交換

道立図書館総務企画部企画支援課主査 海藤 久仁子

助言者 野村 邦重 氏

■事後アンケートから

- ・ かねて知っているつもり著作権法も、説明を受けて改めて理解できた部分があった。
- ・ 条文の文言の解釈や「書いていること」をどう判断するか等参考になった。
- ・ 今知りたい「この場合は？」について知ることができてよかった。
- ・ ガイドラインの活用など、具体的に教えてもらってよかった。

(企画支援課)

読書活動充実事業（読書に親しむ体験事業）

読書活動充実事業（読書に親しむ体験事業）とは、小・中学校において、手描きPOPの作成やビブリオバトルなどの読書活動の体験教室を通して、本の内容を伝え合う手法を習得させるとともに、読書に対する興味・関心を高め、地域における読書活動の推進を図ることを目的とした北海道教育委員会主催事業です。



本事業は、図書館及び書店のない地域の小・中学校を対象としており、平成27年度からの3か年計画とし、初年度には、POPコンサルタントとして全国各地で講演活動を行っている沼澤拓也氏を始めとする「チームPOPジャパン™」の皆様や、ビブリオバトル普及委員会理事である室蘭工業大学准教授須藤秀紹氏を講師にお招きし、2年目からは、当館職員が講師となって実施しました。訪問した小・中学校は44校に上り、多くの児童生徒の皆さんとふれあうことができました。

この事業で、児童生徒は道立図書館から貸し出された本等の中から好きな本を読み、その本を使ってPOP作成又はビブリオバトルを行いました。事業終了後も、成果物（作成したPOPやチャンプ本）を学校や公民館等の施設に展示することにより、まちの人々の興味・関心を集めました。

さて、「そもそもPOPとは何か?」「ビブリオバトルとは何か?」ということも含め、それぞれの事業の様子をご紹介します。

（企画支援課）

【POP作成】

POPとはPoint Of Purchase advertisingの頭文字を取ったもので、店頭の商品というような意味ですが、本の場合は「見た人が思わず読みたくなる」気持ちにさせるためのもので、POP作り教室は、本の魅力を紹介する手描きPOPの作成及び交流を通して、表現力やコミュニケーション能力を高めようというものです。

平成27年度6回、平成28年度18回、平成29年度12回と、3年間で36回行いました。

参加する学校の児童生徒には事前に自分で選んだ本を読んでおいてもらいます。当日は、教室等で5名前後に分かれたグループで机を配置してもらい、POP作成のための資料、下書き用紙、清書用紙等のPOP作りセットを配付します。

まず、図書館の講師が自己紹介やPOPがどういうものか児童生徒に説明をした後、グループで各自がPOPを作成していきます。B5判の練習用の下書き用紙に鉛筆を使って、書名、著者名、お勧め文の3要素を必ず入れて、それぞれどのように配置するか、文字の大きさ等を考えてもらいます。用紙の約半分を占めるお勧め文は、本のあらすじを単にまとめるのではなく、POPを見る人にその本を読みたいと思わせるように工夫をする必要があります。

下書きができた後は、それを参考にしながら清書用のケント紙に今度はマーカー等を使ってPOPを作成していきます。マーカーは黒の他に、赤、青、緑の計4色を使うので、どのように配色するかも工夫します。清書ではPOPの余白にイラストを描いたり、色折り紙を自由に使って貼る等の仕上げをします。

下書きで本のお勧め文に時間をかける児童生徒や、清書で書名のロゴやイラストに力を入れる児童生徒等、様々な作成の工夫がありました。

POPが完成した後は、まずグループ内で一人ずつ順番にPOPを使って本の発表をしてもらい、感想等を話し合います。その後、各グループから1名が教室の前に出て発表して、講師がコメントしていきます。作成したPOPは教室や学校図書館、または公民館等で展示されます。

参加した児童生徒は自分が読んで面白かった本をPOPにして発表し合うことで、楽しそうに盛り上がる様子が多く見られました。



苫前町での様子



共和町での様子

(資料課)

【ビブリオバトル】

ビブリオバトルは、「知的書評合戦」という名も持つ、本の紹介コミュニケーションゲームです。発表者は「バトラー」と呼ばれ、各バトラーがお気に入りの本を、決まった時間内で紹介します。本を紹介されたら、参加者は紹介本についての質問をするなどの話し合いをします。そして、すべての本が紹介されたあとで、どの本がいちばん読みたくなったかを参加者全員で

自分の紹介本以外に投票します。ここで最も票を集めたバトラーの本が「チャンプ本」になるというゲームです。

本事業では、3年間に8市町村で実施してきました。本稿では、筆者が講師として参加した蘭越町立蘭越小学校での様子をご紹介します。

本事業では、3～4名程度でひとつのグループを作ってもらい、その中で参加者がバトラーとなり、グループ内で発表と質問を行う形式にしました。

まずはじめに、ビブリオバトルについての説明を、スライドを用いて講師が行いました。次に、バトラーとして発表する準備として、「本の情報」「その本でいちばんおもしろかったこと」などを書き、発表でどれくらいの時間で話すかをまとめてもらう作業を行いました。



事業の説明

準備の中では、順調に記入票にまとめられる児童もいれば、うまく言葉が出てこな

い児童もいました。そうした場合は、講師や先生方、参加してくれた蘭越町花一会図書室のスタッフと協力して、おもしろかった点や良かった点などを質問し、記載してもらいました。

バトラーの本紹介は3分、グループ内の質問や話し合いも3分。各グループには、必ず大人が一人入り、話し合いをサポートしてもらいました。ビブリオバトル公式サイトにある専用のタイマーを使って、いざバトル開始！各グループ同時に発表したので、白熱して声が聞こえにくい場面もありましたが、本の紹介時間を大幅に余らせる児童もなく、全員が紹介を終えました。



グループ発表の様子

その後、各グループ内で投票し、チャンプ本を紹介した児童には、前に出て感想や本の紹介してもらいました。

最後に、講師からのまとめを話しました。この事業の主目的は、楽しくビブリオバトルをすることだけではなく、本を介したコミュニケーションです。ビブリオバトルのねらいにも、「人を通して

本を知る。本を通して人を知る」とされています。お気に入りの本を紹介し、その本について友達や大人のひとと話す。読みたくなったらその本を読んでみて、さらに感想を話し合う。そういった交流を支える力が、本や読書にはあります。この事業を通じて、さらに多くの人たちとコミュニケーションを図ってほしいと思います。

(利用サービス課)

道立図書館ではたらいっています！ ～各課の1日～

企画支援課のある一日

市町村の読書活動をサポートするのが、私たちの仕事です。

企画支援課は市町村の読書活動をサポートしたり、各種研修会を企画運営したりする課です。

今回は、企画支援課のある日を追ってみます。



8:45 始業
がんばるゾォ！！

9:00
送付本や返却本の梱包について、委託業者と打合せ。

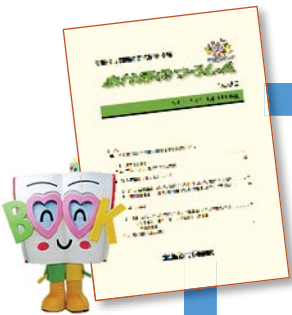
スタート



11:00
市町村立図書館等活動支援誌「あけぼのつうしん」の原稿を作成！

9:30
全道の職員研修の準備！

もしもし？
今度伺います企画支援課の〇〇です。



10:00
出張先の市町村の担当者と事業の内容を打合せ

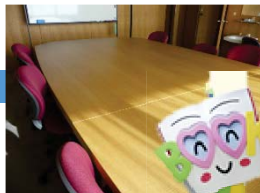


13:00
企画支援課事業の打合せ会議に臨む。

14:00
学校ブックフェスティバル用に送る本を選ぶ作業

16:00
市町村に本を300冊貸し出す準備作業。

12:00
お昼ごはんだ！
エネルギーチャージ！



市町村の活動支援に貸し出す本を選んでいきます。

ゴール

17:30
今日の仕事はおしまい。
明日もがんばります！！



平成29年度北海道立図書館協議会

今年度の協議会は、次のとおり開催しました。

- ・ 第1回 平成29年 8月 4日(金) 北海道立図書館研修室 出席委員 7名
議題1 平成28年度業務実績について
議題2 新しい北海道立図書館事業推進計画について
その他
- ・ 第2回 平成30年 3月20日(火) 北海道立図書館研修室 出席委員 7名
議題1 「平成30年度北海道立図書館運営計画」について
議題2 新しい北海道立図書館事業推進計画について
その他

■ 渡部敏雄委員(北海道PTA連合会事務局長)の平成29年5月31日付け辞任に伴い、藤崎利博委員(同連合会事務局長)が6月1日付けで就任されました。

■ 菅原裕一委員(北海道町村教育委員会連合会(豊頃町教育委員会教育長))の平成29年7月10日付け辞任に伴い、笹原博委員(同連合会(広尾町教育委員会教育長))が7月27日付けで就任されました。

■ 平成30年度は図書館協議会委員の改選期にあたります。委員の交替は平成30年11月1日を予定しています。詳しい内容が決まりましたらホームページや報道機関等を通じてお知らせします。

■ 協議会に関する情報をホームページに掲載していますので、是非、ご覧ください。

トップページ>道立図書館について>道立図書館協議会

ホームページアドレス：<http://www.library.pref.hokkaido.jp/>

(管理課)

平成29年度 全国優良読書グループ表彰・優良読書グループ北海道表彰

北海道読書推進運動協議会

(公社)読書推進運動協議会では、「読書週間」事業のひとつとして、全国優良読書グループ表彰を実施しています。北海道読書推進運動協議会においては、全国表彰への推薦と合わせて独自に北海道表彰を行っており、今年度は新設した北海道表彰 奨励賞も加えた、次の皆様が受賞されました。

全国表彰（1団体）

- 南幌町読み聞かせサークル 南幌町 平成3年設立

北海道表彰 本賞（5団体）

- ブックスタートをサポートする会 岩内町 平成17年設立
- 絵本の読み聞かせ会 比布町 昭和60年設立
- ふらの・ものがたり文化の会 上富良野町 平成19年設立
- 朗読サークル 気のいいアヒル 斜里町 平成7年設立
- ベビーサンタの会 広尾町 平成14年設立

北海道表彰 奨励賞（1団体）

- おはなしの会 うみいろ 奥尻町 平成25年設立

※新たに自主的・積極的な活動を行い、今後の活発な活動が期待される活動歴が5年未満の優良読書グループを表彰する「北海道表彰 奨励賞」を平成29年度より新設しました。

受賞グループの詳細について

北海道読書推進運動協議会が発行している『北読進協だより』第31号に、受賞グループの寄稿文が掲載されています。

『北読進協だより』は北海道立図書館ホームページからご覧いただけます。

北海道立図書館ホームページトップ>関係団体等>北海道読書推進運動協議会
<http://www.library.pref.hokkaido.jp/web/relation/qlnh00000000eww.html>

(企画支援課)



2017・第71回読書週間ポスターと標語ロゴマーク
(公益社団法人読書推進運動協議会)

平成29年度下半期事業一覧

	事業名	開催日	開催場所	概要	参加人数	備考
1	全道図書館専門研修(サービス/レファレンス)	平成29年10月19日 ～10月20日	江別市 (北海道立教育研究所)	道内公共図書館(図書室)職員、市町村教育委員会職員、学校図書館関係職員等向け研修	32名	テーマ:図書館はまちづくりの力になる!～ビジネス支援のためのレファレンス
2	連続講座がんを考える 第1回	平成29年10月29日	江別市 (北海道立教育研究所)	北海道がんセンターの加藤秀則医師(副院長:婦人科)による講演と、当館所蔵資料の紹介で、がんについて知識を深めることを目的とする。	24名	
3	北海道150年プレ事業 第18回資料で語る北海道の歴史講演会「戦前、公文書の中のキリスト教 - 取締りと統制を北海道で読み解く」	平成29年11月11日	江別市 (北海道立教育研究所)	道立図書館が所蔵する関連文書をもとに、戦前の札幌のキリスト教を巡る状況について学ぶ講演会(講師:北海道史研究協議会会員 鈴江英一氏)	32名	
4	連続講座がんを考える 第2回	平成29年11月12日	江別市 (北海道立教育研究所)	北海道がんセンターの高橋将人医師(統括診療部長:乳腺外科)による講演と、当館所蔵資料の紹介で、がんについて知識を深めることを目的とする。	12名	
5	全道図書館専門研修(子ども読書/地域支援)	平成29年11月15日	中標津町 (中標津町総合文化会館)	道内公共図書館(図書室)職員、市町村教育委員会職員、学校図書館関係職員等向け研修	14名	テーマ:アンテナ張って!～一歩外に踏み出す児童サービス～
6	平成29年度北海道図書館振興協議会第2回理事会・全道図書館長会議	平成29年11月22日	札幌市 (北海道立道民活動センターかでの2.7)	北海道図書館振興協議会理事会、館長会議及び講話	46名	講話:これからの図書館を考える 講師:平賀研也氏(県立長野図書館長)
7	北海道150年プレ事業 連続講座 映像によみがえる北海道 第1回「北海道開拓記念館の誕生から北海道博物館まで」	平成29年11月25日	江別市 (北海道立教育研究所)	北海道開拓記念館の誕生から北海道博物館までのあゆみを、映像資料で振り返る(講師:北海道博物館学芸主査 東俊佑氏)	40名	
8	全道図書館専門研修(経営/関係法規)	平成29年12月14日	小樽市 (市立小樽図書館)	道内公共図書館(図書室)職員、市町村教育委員会職員、学校図書館関係職員等向け研修	32名	テーマ:今こそ聞きたい!読書活動をめぐる法律～著作権法・子どもの読書関係法規～
9	「かるちやるガーデン2017」	平成29年12月17日	札幌市 (Sapporo55ビル)	北海道教育大学博学連携イベント。(しかけ絵本・おはなし迷路展示、道立図書館映像資料上映、クイズラリー、ワークショップ等の体験型イベント)	—	かるちやるnet (文化施設連絡協議会) http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/cultural-net/
10	光の広場パネル展(かるちやるnet主催事業)	平成30年1月6日 ～1月7日	札幌市 (サンピアザ 光の広場)	かるちやるnet参加施設の紹介パネル展	—	かるちやるnet (文化施設連絡協議会) http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/cultural-net/
11	学校図書館職員スキルアップ講座(後期)	平成30年1月12日	江別市 (大麻セレモニホールはやし)	学校の長期休業期間中に、学校図書館関係者を対象に、技能の向上を図るための研修。	21名	
12	全道図書館専門研修(サービス/資料保存)	平成30年1月18日	江別市 (北海道立教育研究所)	道内公共図書館(図書室)職員、市町村教育委員会職員、学校図書館関係職員等向け研修	27名	テーマ:実践!～手軽に取り組む、図書館資料の補修修理～
13	北海道150年事業 連続講座 映像によみがえる北海道 第2回「北海道の記録映像～北の記憶を観る～」	平成30年1月20日	江別市 (北海道立教育研究所)	戦後開拓に関する記録映画を鑑賞しながら、北海道の記録映画のあゆみを紹介する(講師:北海道博物館学芸主幹 三浦泰之氏)	46名	
14	北海道150年事業 連続講座 映像によみがえる北海道 第3回「なつかし映像鑑賞会」	平成30年2月24日	江別市 (北海道立教育研究所)	1960～70年代の北海道の様子を、当時の映像作品で振り返る鑑賞会	47名	

平成30年度 事業計画

月	上 旬	中 旬	下 旬
4		北図振 第1回理事会・総会 (19日 札幌市)	子ども読書の日 (23日) こどもの読書週間 (4/23~5/12) 図書館記念日 (30日)
5	図書館振興の月 第2書庫ツアー (6日)	北学図 定期総会 (12日 札幌市)	北読進協 総会 (札幌市) 全公図 第1回理事会 (30日 東京都)
6		北図振 全道図書館新任職員研修会 (14~15日 札幌市) 北日図連 総会・第1回理事会 (14日 秋田市) 北日図連 北日本図書館大会 (14~15日 秋田市) 日図協 公共図書館部会総会、代議員総会 (15日 東京都)	第1回北海道図書館連絡会議 全公図 定期総会 (29日 東京都)
7	北図振 全道図書館中堅職員研修会 (5~6日 江別市) 北図振 管内図書館振興協議会等地方研究集会 (7~2月 各管内で開催)	第1回北海道立図書館協議会	北図振 「北海道図書館関係職員録」発行
8	学校図書館職員スキルアップ講座 (前期) (7日 江別市) 資料展示「北海道の150年をふり返る」		北海道150年事業 資料展示解説「道立図書館所蔵資料で振り返る北海道の150年」 (19日)
9	北海道150年記念・レコードコンサート「“音”でたどる北海道の歴史」 (8日 江別市)	北図振 北海道図書館大会 (13~14日 札幌市)	
10	北図振 全道図書館専門研修 (経営/企画・広報) (旭川市) 北日図連 研究協議会 (4~5日 福島市)		日図協 全国図書館大会 (19~20日 東京都) 読書週間 (10/27~11/9) 文字・活字文化の日 (27日) 北図振「北海道の図書館-平成30年4月現在-」発行 図書館総合展 (30日~11月1日 横浜市)
11	北読進協 優良読書グループ表彰 第2書庫ツアー 資料展示「子ども達の北海道~明治から平成まで~」	第2回北海道立図書館協議会 北図振 全道図書館専門研修 (サービス/レファレンス) (道南地区) 北日図連 北日本図書館地区別研修会 (14~16日 宮城県) 資料で語る北海道の歴史講演会	第2回北海道図書館連絡会議 北図振 第2回理事会全道図書館長会議 (21日 札幌市) 日図協 全国公共図書館研究集会 (サービス部門、総合・経営部門) (29~30日 金沢市)
12	北学図 青少年読書感想文全道コンクール及び北海道指定図書読書感想文コンクール表彰式 (2日 札幌市)	北図振 全道図書館専門研修 (子ども読書/学校支援) (13~14日 江別市)	
1	北学図 北海道学校図書館研修講座 (8~10日 札幌市)	北図振 全道図書館専門研修 (経営/関係法規) (17日 江別市) 学校図書館職員スキルアップ講座 (後期) (16日 江別市)	
2			北日図連 第2回理事会
3		第3回北海道立図書館協議会	

※ 上記の日程は変更になる場合があります。

<凡例>

- ・北図振・・・北海道図書館振興協議会
- ・北日図連・・・北日本図書館連盟
- ・北読進協・・・北海道読書推進運動協議会
- ・北学図・・・北海道学校図書館協会
- ・日図協・・・日本図書館協会
- ・全公図・・・全国公共図書館協議会

北海道立図書館報 第204号

平成30年3月21日 発行

北海道立図書館長 成田直彦

〒069-0834 江別市文京台東町41番地

TEL : 011-386-8521 (代 表)

ダイヤルイン

386-8531 (総務企画部)

386-8522 (利用サービス部)

386-8523 (北方資料室)

FAX : 011-386-6906

E-mail : support@library.pref.hokkaido.jp

ホームページ : <http://www.library.pref.hokkaido.jp>